

場に立って、科学の総合的把握に努め、科学者の社会責任について思いをいたすことを強調したのである。

また、公害の根絶を願う国民の立場に立って、共に全科学者に対し、公害に対する総合的全国的な研究組織の創設とさらにその成果を、産業と国民生活に反映、滲透させていこうと訴えた。

また、政府においても、公害研究所の設立が問題になっているが、公害の研究、調査は、従来の観念や既成の

行政組織をそのままにしては決して正しい研究ができないことにかんがみ、学問分野の既存の領域を超えて協力が可能となるような体制の確立の必要性を強調したのである。われわれは、この訴えの精神をふまえ、これを実現に移していくためにいっそうの努力を必要とすると同時に、全科学者の責務の重大さを重ねて訴えたいのである。

第16期第13回常任理事会 議事録

日 時 昭和46年11月15日 15.00～19.00

場 所 気象庁観測部会議室

出席者 大田, 川村, 北川, 関原, 岸保, 関口, 駒林,
藤原各常任理事

列席者 中村, 鈴木庶務委員

報告抜萃

〔庶務〕 1. 9月21日山本義一会員を朝日賞候補者に推薦した。

2. 9月28日, 東京都知事に対し, 大気放射国際会議の寄付金募集許可申請をした。

これに対し10月8日付で許可された。

3. 9月30日, 全理事に対し, 気象集誌編集委員に吉田泰治会員を追加することについて書面審査を依頼した。

その結果, 可24, 未回答1であったので10月7日就任を依頼した。

4. 10月4日 東京大学海洋研究所長から, 昭和47年度に同所を利用する研究会の開催, および外来研究員ならびに研究船を共同利用する計画があれば11月30日までに申込むよう通知がきた。

5. 10月9日 昭和47年4月13日～15日国立教育会館で開催予定の第9回理工学における同位元素研究発表会運営委員長から, 論文募集要領および共催分担金について通知がきた。

講演申込期日 1月31日

要旨集原稿〆切 2月29日

なお, 分担金は2,000円送金した。

(天氣に掲載する)

6. 10月11日 文部大臣に対し, 大気放射国際会議の寄付金は所得税法の特定寄付金および法人税法の指定寄付金として大蔵大臣から免税の指定を受けたいので, 文部省の意見書または推薦書を下付されるよう申請した。(組織委員会を開催し, その議事録を添えるよう文部省から連絡があつた。)

7. 10月31日 大蔵大臣に対し, 同上の免税申請をした。

8. 10月16日 国際海洋開発会議展示会事務局長から, 昭和47年10月5日～7日経団連会館で開催予定の第2回国際海洋開発会議ならびに展示会の第2次案内書がきた。

9. 10月18日 国立科学博物館極地研究センター所長から, 昭和48年度南極地域観測研究観測計画があれば明年1月30日までに申込むよう照会がきた。

10. 10月20日 本学会東北支部長から, 西本清吉氏の退官に伴い, 支部長は佐々木芳治会員に変更になつたと報告がきた。

11. 11月4日 (財)藤原科学財団理事長から第13回藤原賞受賞候補者推薦依頼がきた。

〆切 明年2月29日

12. 11月11日 日本地球物理学連合当番学会(火山学会)幹事下鶴大輔氏あてに昭和47年度科研費補助金の配分審査委員候補者として次のとおり推薦した。(以下54ページへつづく)

が) や、宣伝めくが私が在職中東大で学生の人達と研究した熱帯気象学の論文集は大変良く読まれている。日本の雑誌にのった論文を削ったことにより、この論文集の外国での需用は半減し、財政的にも損をしたと思う。負しい日本の研究者が文献を安く入手するためという説明も、ドルをおびやかす経済強国の気象学会の事業として、もはや通用し難い論理である。

今後この種の企画をたてられるときには、再検討をお願いしたい。

(45ページからのつづき)

第1段審査委員候補者

分科	細目	候補者氏名	所属・職名	備考
地球物理学	固体地球物理学	一戸時雄		継続
		横山泉		〃
	気象海洋 陸水	山元竜三郎		〃
		国司秀明	京大理 教授	新規
	樋口敬二	名大理 教授	〃	
	超高層物理学	福島直 前田担		継続 〃

なお、第2段審査委員は、鈴木次郎継続

13. 駒林誠会員は、IAMAP 内の国際雲物理委員会会の代表 Helmut K. Weickmann 博士から同委員会の下部組織である凝結核氷晶核委員会のメンバーにえらばれた。

[天気] 1月号に理事長の巻頭言を掲載する。

- IUGG の報告を11月号に掲載。
- 小元敬男氏の解説を12月号に掲載する。

[ノート] ・メソ気象力学(浅井氏)は108号の予定

[学会賞] ・昭和45年度奨励金受領者から報告書が届いた。

- 東レ科学技術研究助成候補者として矢野直会員(気研・応用)の放射性同位元素による大気浮遊塵の発生と沈降に関する研究を推薦した。

議題

1. 大気放射国際会議について

米国気象学会が大気放射国際会議の後援者となりたいと申し出たので、これを了承する。

2. 正野記念論文集について

- 理事長より長官に再度論文集購入促進をお願いする。
- 頒布価の広告は1部3,000円とする。
- 各機関(団体会員、大学、研究所等)にあらかじめPRする。
- 校正料15,000円の出費を認める。
- 論文集は、気象集誌の Vol. 49 の最終号として Special Issue とする。

3. 来年度の春季および秋季大会の会期とシンポジウムの議題について。

- 春季大会会場は気象大学校で、大会委員長は大学校長とする。
- 会期は5月16日~19日のうち3日間4会場の予定で気象大学校に検討してもらおう。(その後5月16日気象庁講堂17日~19日の3日間3会場気象大学校の予定と変更された。)

シンポジウム題目は「南西諸島における気団変質の観測計画」の予定として検討する。

- 秋季大会の開催地は新潟とし大会委員長は、新潟地方気象台長とする。

会期は10月24日~27日を予定して東京管区気象台と交渉する。

シンポジウムの題目については現地と相談する。

4. 会費改訂について

印刷費、郵便料金等の値上がりのため会費の値上げを必要とする。また支部研究会補助金、天気、集誌編集の増額および増頁、奨励金の増件、人件費等の学会活動を促進する経費をもち込んだ予算案を再度検討する。

承認事項 新入会員伊藤正三外11名の入会を承認する。